

# れきみん となん歴民だより

## vol.84

令和8年3月31日発行

盛岡市都南歴史民俗資料館

### ■となん・かけはしの会 一年間の活動を振り返ります。

となん・かけはしの会は、自分たちの住む地域の歴史や文化に興味がある方が集まり、平成24年に結成されました。今年で14年目、会員数は今年度41名、事務局を都南歴史民俗資料館に置き活動しています。一年間の活動を振り返ります。

#### 茶話会

地域のさまざまな歴史を学ぶ会として、奇数月に開催しました。基本的には会員と資料館職員が話題提供をするのですが、第2回では三閉伊一揆の指導者であった三浦命助の子孫の方から直接お話を伺う機会を得、命助の生き方に触れることができました。



- |                           |                        |
|---------------------------|------------------------|
| 第1回(5月)「奥州道中(仙北町～津志田)を歩く」 | 第4回(11月)「鍵屋 村井茂兵衛について」 |
| 第2回(7月)「南部三閉伊一揆について」      | 第5回(1月)「都南歴民の収蔵書画について」 |
| 第3回(9月)「九戸氏と九戸城」          | 第6回(3月)「飯岡地区の歴史散歩」他    |

#### 歴史探訪ウォーキング

身近な歴史を知るため、地域にある史跡や文化財を訪ね歩きました。第1回は徒歩で、第2回は範囲が広がったため車を使って移動しました。史跡等が身近にありながら、気づかず生活していることに驚きました。



- 第1回(6月)「仙北町から津志田」 17名参加  
小鷹刑場、感恩寺、北重左衛門石碑、いたこ塚、大国神社、他
- 第2回(9月)「乙部界限」 14名参加  
小山神社、大泉院、館林神社、如法寺、乙部館、大萱生金山、他

#### 史跡文化財巡り

今年度は二戸市と九戸村を、市バスを利用して訪問しました。九戸政実の生誕地と言われる九戸村まで足を延ばし、関連史跡を見学し、九戸氏代々の祈願所であったと言われる九戸神社の神主さんのお話を聞くことができたのは大変意義深かったと思います。



- 10月実施 「九戸氏ゆかりの地と九戸城」 21名参加  
長興寺、九戸神社、政実公首塚、九戸城址、  
二戸埋文センター、 他

令和8年度会員を募集します！

地域の歴史や文化を勉強してみたいという方ならどなたでも大歓迎です。  
詳しくは事務局(都南歴史民俗資料館)にお問い合わせください。  
(☎638-7228)

早池峰山のふもと、<sup>たけ</sup>岳というところに、妙泉寺というお寺がありました。昔、お寺の小僧が、お香を作るため桂の木に登り葉を取っていたところ、落ちて気絶してしまいました。そこへ早池峰山の<sup>せおりつ ひめのみこと</sup>瀬織津姫命という女神が現れ、「水無沢の山道の奥にある岩のくぼみに1本、枝垂桂を育てておいたから、境内に植えるとよい」と告げました。小僧と和尚が水無沢に行くと1本の桂があり、2人は喜びその木をお寺に移しました。

約200年後、枝垂桂は大木になっていました。この木から3尺幅の戸板を切り出してお寺の普請に使ったところ、翌春、<sup>あま</sup>またも現れた女神は、住職に「この木が絶えるのは惜しいこと。切り株から芽が出るから、大事にして多くの寺に分けるとよい」と、告げるのでした。それから2～3日して、不思議なことに2尺ほどの芽が5～6本伸びていました。この霊木の1本を大ヶ生村の瀧源寺に送ると、同寺の開山慶守和尚がよく手入れをして育てました。

さらに200年ほどたった天保年間(1830～1844)、枝垂桂は瀧源寺の屋根を覆うほどの大木に育ち、お寺の普請にはこの木を切り出した3尺幅の板がつかわれました。幸い、大木を切った後も切り株から芽が出て、育ったものが現在瀧源寺にある枝垂桂です。

※ 大ヶ生の殿様大ヶ生秀重が、家来から献上された枝垂桂の小木を菩提寺である瀧源寺の開祖慶守和尚に与えたという伝説もあります。

出典:『となんの民話』(都南歴史民俗資料館、1988)。

ゆかりの記念物 シダレカツラ

国指定天然記念物。カツラの枝は通常斜上するが、シダレカツラは枝が垂れ下がる。雄株のみという性質のため増殖は困難だったが、阿部善吉の長年の研究により可能となり、市内や県内で多くみられるようになった。肴町や門の個体は瀧源寺のひこばえを移植したもの。



盛岡市大ヶ生 22 地割 99 瀧源寺  
県交通「乙部」下車徒歩 40 分(車で移動をお勧めします)  
本堂の裏にあります。お寺の承諾を得てください。

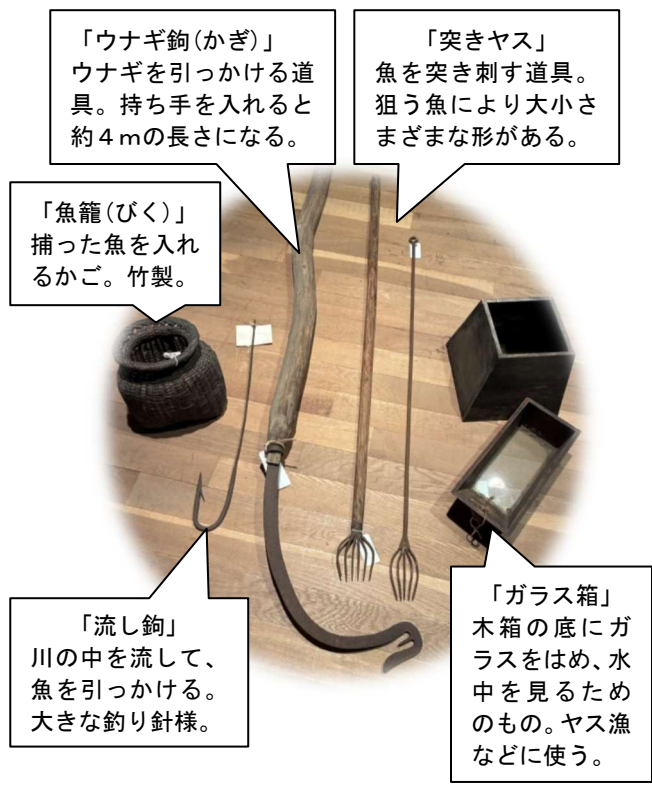
== 見て さわって 動かして 深まる学習 ==

～昔の暮らしを知る 盛岡市都南歴史民俗資料館の貴重な収蔵品～

★令和7年度 第4回 「川漁」

イワナ、カジカ、ウナギなどの川魚、現在では多くは漁としてではなく、釣りなどの趣味として捕獲されていますが、縄文時代から昭和初期の頃までは自給の食料として非常に大切なものでした。大人にとっても子どもにとっても「ザッコ(ジャッコ)捕り」は趣味と実益を兼ねたものでした。高度経済成長期以前の河川は水も清らかで水量も多く、川魚が豊富に生息していたそうです。

当館には、川漁に使った道具が数点所蔵されています。60歳代以上がよく川で遊んだ人たちにとっては懐かしく感じる道具かもしれません。今では釣りをする姿は見られなくても、川に潜って魚を追う姿を見ることはほとんどなくなりました。ぜひ当資料館に足を運んでいただき、川と人間とがもっと近い関係にあった時代に思いを巡らせてほしいと思います。



「ウナギ鉤(かぎ)」  
ウナギを引っかける道具。持ち手を入れると約4mの長さになる。

「突きヤス」  
魚を突き刺す道具。狙う魚により大きさまざまな形がある。

「魚籠(びく)」  
捕った魚を入れるかご。竹製。

「流し鉤」  
川の中を流して、魚を引っかける。大きな釣り針様。

「ガラス箱」  
木箱の底にガラスをはめ、水中を見るためのもの。ヤス漁などに使う。